令和５年度　第２回国産材の安定供給体制の構築に向けた
北海道地区需給情報連絡協議会　議事録

１　**日　時**：令和６年１月２３日（火）９：３０～１１：４７
２　**場　所**：ウェブ会議（Zoom）
３　**参加者**：別紙のとおり
４　**議事次第及び配付資料**：別紙のとおり
５　**概　要**
（１）冒頭挨拶
〇北海道素材生産業協同組合連合会　髙篠　会長
本日は林野庁はじめ森林管理局、水産林務部林業木材課の皆様、そして道内の林業、木材産業、住宅産業に携わっておられる川上から川下の各分野の皆様には、年初めの大変御多用の中、会議に御参加いただきまして、この協議会が開催できますことを心から感謝申し上げます。
また、森林総研北海道支所地域研究監の嶋瀬先生には、第１回に引き続き座長をお願いしているところでございまして、重ねて感謝申し上げます。
新型コロナが５類に移行しまして、ようやく経済活動も活発化している状況ですが、混沌とした世界情勢の中、円安も続いており、エネルギー問題、物価上昇をはじめ、日本経済の先行きは楽観視できる状況にはなく、木材産業をめぐる環境におきましても、様々な影響が懸念されています。
道内におきましては、札幌中心部の再開発、そして千歳のラピダスの工場建設などがあり、地価や建設費が上昇し、木造の住宅着工戸数は、対前年比１割強減の状況にあり、製材工場では減少傾向にあるものの丸太在庫を抱えるなど、また、原料材については、高値で推移しているなど、木材需要をめぐっては厳しい状況にあります。
国産材の需要拡大につきましては、建築物における木材利用の促進に関する基本方針に沿いまして、一層の国産材利用の促進に取り組むこととしている一方で、トラック会社などの運送業界におきましては、2024 年問題ということが目の前にあり、その影響が危惧されているところです。
このような状況ですが、道産材の安定的な価格供給、需要を通じて、可能な限り道産材の比率を引き上げていくことが、道内の林業、木材産業の発展に大きく貢献するものと考えております。
人手不足をはじめ、それぞれの分野の課題もあり、一朝一夕で解決できるものではないが、情報を共有して、同じ認識の中でサプライチェーンの構築が着実に推進されることが重要かと思います。
本日の協議会では、皆様との情報共有が各分野の相互理解につながり、そして、取組が国及び北海道の施策や予算などにも反映され、道内の林業、木材産業、住宅産業の発展に寄与することを期待しています。

終わりに、林野庁様からの資料提供や、皆様からのアンケートを回答いただいており、貴重な御意見、情報提供など、活発な情報交換をお願い申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。

（２）議　事

○（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所北海道支所　嶋瀬　地域研究監
（以下、嶋瀬　座長）

令和５年６月に開催された前回の会議では、住宅需要の落ち込みの影響などからプレカット稼働率や製品の販売量が低位であり、製品価格にも影響を及ぼしているというお話や、エネルギー等の生産コストが上昇し、その対応に苦慮されているといったお話が多く聞かれました。原木の生産については比較的順調とのことでしたが、荷動きが小さいといったお話もありました。引き続き、国産材活用の機運の高まりをどう生かしていくか、需給に関する情報共有や関係者間の意見交換が非常に重要と感じたところです。

本日は、まず議事の一つ目として、林野庁様から需給動向や予算措置に加え、建築基準法等の改正等についての資料説明をいただきます。その後、直近の需給動向等について、構成員の皆様から情報共有や意見交換をいただければと考えております。

それでは、林野庁様から資料説明をお願いします。

○林野庁木材産業課　永島　課長補佐

資料１～４、参考資料について説明

○林野庁木材産業課　鈴木　上席木材専門官

資料５について説明

○林野庁木材利用課　坂本　課長補佐

資料６について説明

○林野庁木材利用課　吉藤　木材専門官

資料７について説明

○嶋瀬　座長

資料５～７、改正建築基準法の施行について、改正クリーンウッド法の施行に向けて、木質バイオマスのライフサイクルＧＨＧについて、質疑の時間を取らせていただきます。このあと、北海道大学の佐々木先生がご都合により退室されますので、まず先生から、資料５～７への質問のほか、今回の議事全体にわたって、何かありましたらお願いします。

○北海道大学大学院農学研究院　佐々木　教授

最新の動向ですとか、基準法の改正、バイオマスのＦＩＴの対応のＧＨＧの情報が必要であるとか、現場にすごく直結した話題、問題だと思って聞かせていただきました。

北海道内に、ＦＩＴに対応した発電所はどのぐらいあるのか、お分かりでしたら教えていただきたい。

○林野庁林政部木材利用課　吉藤　木材専門官

今、手持ちで数字は持っていないので申し上げることはできませんが、今回説明したライフサイクル GHG の対象となる発電所もあるのかなというところです。

〇北海道大学大学院農学研究院　佐々木　教授

ＪＡＳ材の普及がこれから需要が高まるという話でしたが、道内ではどのぐらいＪＡＳ認定工場があるのか教えていただきたい。

〇林野庁林政部木材産業課　鈴木　上席木材専門官

手持ちで資料がなくて、正確な情報を申し上げることはできないが、製材のＪＡＳ、全国で見ると、大体格付されている流通量は１０％ぐらいとかなり低位な状況にあります。

そういった状況で、ＪＡＳ材へのニーズが高まるというのは、これは仮定なのですが、例えば、これまでの仕様規定ではなくて、構造計算をする建築事業者が増えた場合、ＪＡＳ材を使うほうが有利になります。要はＪＡＳ材は高い基準強度が与えられるので、ＪＡＳ材のニーズが高まる可能性があります。

ただ、その場合でもＪＡＳ材ニーズが極端に高まることはないかとは思いますが、そういった需要の動向に変化が生じる可能性はありますので、しっかりウォッチをしておくべきと考えているところです。

なお、北海道の製材工場は梱包材などの生産が多く、建築用材がそれほど多くはないことから、北海道の製材工場への影響は、本州ほどは大きくはないのかなと考えられます。

〇嶋瀬　座長

北海道の製材工場は、構造材をメインで挽いているところが多くないので、その意味では、全国的な動向よりも、現状ではＪＡＳ認定工場数、ＪＡＳ材の生産ともに少ないと考えています。

二つ目の議事は、需給動向の報告と意見の交換になります。需給について、製品輸入量をみますと、2023 年を通じて低位な状況が続いていましたが、東京港の在庫は減少傾向から直近で底を打ったような状態です。建築着工については、前年同月比で減少が続いています。前回協議会以降の価格については、原木は下落傾向から上昇した地域がみられ、製品については底を打ち、直近では強含むものもみられるということでした。

それでは、川下の建築事業者の方から指名をしてまいりますので、林野庁からご説明いただいた統計情報なども踏まえつつ、情報提供をお願いします。

まず住宅建築について、ＪＢＮ様からお願いします。

〇（一社）ＪＢＮ・全国工務店協会　武部　理事

１月は我々ちょっと閑散期に入りまして、いろいろな勉強会ですとかセミナーが、この間多くあります。工務店業界ですけれども、業界の皆さんといろいろな場で会ったり意見交換、あるいは今年どうなるのだろうみたいな話題が出るが、昨年から物価上昇等があって、坪単価が非常に上がってきた。道央地区とりわけ千歳から札幌の沿線、あるいは札幌周辺の土地が非常に上がってきた。この二つが重なってきて、注文住宅に関しては本当に減少が厳しい。この後もそんなにすぐには復活しないのではないかと、皆、肌感覚で感じているところです。

分譲系に関しても、同じようなことが言えるのではないかと思います。一時期、注文住宅が減った分、分譲に下がった現象もあったが、その辺りはちょっと落ち着いて、戸建てに関しては、あまりいい見通しではないように思います。

その分、非住宅の木造が、近年注目を浴びてきていますけれども、これらも機能性とかの問題がどうしても絡みます。これに対して様々な将来的な後押しといいますか、補助金なんかもありますが、まだまだ住宅ほど充実していない感じがありますから、これから木造建築の非住宅分も、これはゼネコン系も含め、我々地域の工務店も、こちらのほうに出ていくことが多くなっていくし、そういう要望や要求が出てくると思いますが、これに対する行政の後押しみたいなものがあれば、一歩、二歩、新たに踏み出すところも増えてくるのかなと感じています。

木材の価格に関しては、昨年からは落ち着いてきていると思います。製品に関しては、やはりまだまだちょっと高いという感じは、当社に関しては持っています。

○嶋瀬　座長

木材価格は統計の上でも少し落ち着きつつあるようですが、前回伺った際は、「価格転嫁は一部では通っているけれども、必ずしも全部ではない」というお話だったかと思います。その部分について、追加的に認められてきているような状況はあるのでしょうか。それとも、地価の上昇もあって戸建住宅では需要が低迷し、値上げが通りづらいというような状況が生じていたりするのでしょうか。

○（一社）ＪＢＮ・全国工務店協会　武部　理事

昨年、社会全体的に価格上昇、あらゆるものが上がったこともあって、お客さんもそういうことは認識があったので、初期段階で上げたのは、まあまああったと思います。ただ、もう今は、生コンから始まってあらゆるものが上昇しているので、その辺りは限界かなという感じはします。価格転嫁は、もうこれ以上できないと思います。

○嶋瀬　座長

北海道プレカットセンター様から情報提供をお願いします。

○北海道プレカットセンター（株）岡本　取締役

道内のプレカット業界は、各社閑散期に入ったのですが、例年よりも稼働率が低い為、各社価格競争にて仕事を確保する事を優先としています。

お客様であるビルダーや不動産関係も、北広島・恵庭市・千歳市・苫小牧市の土地は上がっているみたいなのですが、札幌市の土地下落もあって、分譲住宅の在庫処理に苦労しており、それの販売ができないと、次の分譲を建てることができない状況です。

注文住宅も購買欲低下により落ち込みが酷いため、森林環境譲与税を出口となる住宅・非住宅の木造住宅（地域材仕様）に使用できないかと思います。森林整備が中心になるかとは思いますが、今後の森林環境譲与税の使用比率とか、その辺の使い方はどのようになっているのか、教えてもらいたいと考えています。

非住宅に関しては、やはり鉄の値上がりが止まらないみたいで、商業店舗は木造化に変わってきている傾向が見えるように思います。

○嶋瀬　座長

道内のプレカットに関しては、最近、私もお話を伺う機会がありましたが、今、伺ったのと同じでした。千歳の一部で住宅需要、地価の上昇がみられ、活況である一方、全道的には特に札幌圏を中心に必ずしも盛り上がっていかない。非住宅に関しても、牛舎や豚舎

のような畜舎の需要が一時拡大したが、畜産業自体に餌代の高騰といったことがあり、必ずしも、今、畜舎の需要についても、プレカット業界ではあまり盛り上がっていかず、いい状況ではないとのことでした。住宅需要が引き続き低位ということですので、住宅・非住宅ともに必ずしも盛り上がっていかない、縮小している厳しい状況が、もう少し続きそうな見通しということだと思います。

次に、川中の方々にお伺いしたいと思います。

まず、集成材のオホーツクウッドピア様から木材加工についての情報提供をお願いします。

○協同組合オホーツクウッドピア　中根　理事長

現状、過去にないぐらい注文がなくて、去年の１０月ぐらいから、特に非住宅の案件も含めてかなり落ち込んで、本当に過去最低数量といった状況が続いております。

来年度の４月以降、若干ですけれども非住宅物件が多少出てきているところもあるのですが、住宅がかなり落ち込んでいるといったところです。

当社の場合カラマツの製材（ラミナ）を中心に調達しているが、調達としては非常にしやすくなってきています。ただし、原木価格が本州みたいに大きく下落していないので、一定の幅の中で若干値段は下がってきているが、大きく下がることがなく、それよりも販売価格が抑えられているといったところが非常に厳しい状況になってきています。

一方で、当組合の場合はほぼ１００％国産材で生産をしているが、同業他社で輸入材を原料にされているところは顕著なのですが、輸入価格が下がったなりに、販売価格を下げています。また、ヨーロッパはもう下げ止まりでそれ以上安くできないということで反転してきています。

かつ、今のスエズ運河の問題で、ずっと喜望峰を回ってこなければいけない状況で、船運賃の上昇の転嫁も、今、ちょうど話が出てきていて、皆さん、しょうがないのでその分価格をのんできている状況です。非常に厳しい売れない状況ではあるが、集成材に関しては各社、もうこれ以上ということで再度価格を転嫁して、販売価格を上げざるを得ないといった状況になってきています。

○嶋瀬　座長

非住宅について、春頃から少し動きが出そうだとおっしゃっていたと思うのですが、これはどのような分野の需要なのでしょうか。

○協同組合オホーツクウッドピア　中根　理事長

単純に物件が全くなかったのが少しずつ見えてきている状況になります。増えてきているのは、昨年と比べて、やはり民間よりも公共の物件が少しあるといったところになります。

○嶋瀬　座長

続いて合板分野として、丸玉木材様から情報提供をお願いします。

○丸玉木材（株）八鍬　木材グループ長

当社合板の状況としましては、2022 年の末から昨年の末まで生産調整を余儀なくされていたが、昨年６月頃から少しずつ需要の回復が見えまして、昨年１１月から現在まで

フル稼働で生産している状態です。

しかし、その１１月をピークにまた需要が減少傾向となって、今年１月に入ってからは荷動きが一層静かになっています。もともと冬は不需要時期でもあるので、この状態が続けば、再び生産調整もあり得る状況だと聞いております。

また、製品価格においても下落が続いており、昨年末にはピーク時と比較して３割程度価格が落ち込んでいる状況です。

この動きによって顧客の当用買いの意識も高まっている印象で、今後さらなる値下がりも懸念されているところです。

原木ですが、生産調整の影響もあり、昨年の初めから夏頃にかけては過剰在庫の状態がずっと続いていました。その間も何とか受け入れ止めはせず、数量を絞る形で対応させていただきながら、現在もまだ過剰な感じはあるが、適正在庫付近までには戻せている状況です。

これから冬山造材がピークになってくると思うのですが、一方で製品の需要や価格が安定しない、先が読めない事情もあるので、原木もその辺りを十分に考慮して購入していく必要があると考えています。

○嶋瀬　座長

フル稼働にまで回復したところから、今は少し下がってきているというお話でしたが、道内向けと道外向けという出荷先地域別の温度差のようなものがあれば教えてください。

○丸玉木材（株）八鍬　木材グループ長

申し訳ありませんが、今、具体的にお答えできるものがありません。

○嶋瀬　座長

北海道は、今の時期が原木調達の最盛期ということで、この時期にある程度、春以降に使う分をまとめて調達しなくてはならないわけですが、そのような時期に限って先が見通せない状況というのは、原木調達をされる立場からは非常にしんどいのではないかと思うのですが、その辺りのことについて、感覚的なことになるかもしれませんが、お話を伺えればと思います。

○丸玉木材（株）八鍬　木材グループ長

冬山造材の原木というのは非常に良質なので、この辺りで集荷をしておいて春先までというのが通常の考えなのですが、やはり先が見えない状態で、ただただ原木を購入しても、また生産調整がある可能性の中、その辺も原木を劣化させてしまう要因にもなるので、そこは上手に買っていきたいと今年は思っています。

○嶋瀬　座長

日本製紙木材様から情報提供をお願いします。

○日本製紙木材（株）北海道支店旭川営業所　加藤　マネージャー

道産材に関しましては、先ほど丸玉さんの話もありましたように、先行きがちょっと見えないものですから、日本製紙旭川工場、今、広葉樹が不足しております。そのため、一部針葉樹を伐りながら、または広葉樹伐採ができる業者は広葉樹に入ってもらっている状況なのですが、広葉樹を伐る業者が年々少なくなってきているところで、原料調達には

苦労している状況が続いています。

ここに来て広葉樹、１月ぐらいから銘木市も併せて、今年もナラが高めというところで、ロシア材の原木が入ってきませんので、ナラ、タモ、違う樹種も底値から上がってきている状況です。これに向けて広葉樹を少しでも、この時期に集めたい考えであります。

道内向けの製材工場さんには、今のところ上川地区、２か月から３か月ぐらいの在庫があるので、直近注文を急いで買わなければならないところは、見受けられないところであります。

○嶋瀬　座長

針葉樹に対する需要が落ち着いてきている一方、広葉樹がパルプ用から銘木市に出すようなものまで不足気味で、そちらの生産に傾斜している状況はあるが、広葉樹の生産を担える担い手が減っている中で、やりくりが厳しい、そのような状況と理解しました。

物林様から情報提供をお願いします。

○物林（株）営業本部札幌支店　秋元　国産材営業部長

当部は丸太中心に扱っていますので、ウッドショック以降、やはり先ほどから末端の住宅関係の方、途中の加工関係の方のお話のとおりでして、縮小する需要に対応するために、山側も非常に苦労してきた年かなと思います。

特に、減産に応じて素材生産をコントロールするのは非常に難しいが、そこにどう我々が合わせていけるのか、非常に大変な年でした。

ただ、昨年は非常に夏は暑く、冬は今、温暖化ということで、道の問題で山からの搬出に非常に苦労している年であることも言えまして、非常にタイムリーな出荷ができず、運送会社さんの問題は今後も厳しくなる一方ですが、担い手が少なくなることで、そういった物流のタイミングが非常に遅れ遅れに来ているので、ちょうど夏から秋ぐらいまでは、非常に受入れの幅が縮小した工場が多かった。一方で山側もそういった物理的な問題で出しにくい状況が続いて、何とかかんとか減産に合わせた動き方ができてきたのかなと思います。

冬山造材に切り替わって、夏場の不良化された材も一掃された中で、メーカーも適正在庫ではあるが、春先へかけての備蓄もあり、品質が劣化しにくい冬山の材は、適正な価格で適正な量が動いているように感じられます。

この先については、ちょっと不透明さがまだ強いので、本当に末端の需要に合わせていくしかないが、山側がそれにどうやってタイムリーに合わせることができるのかは、引き続き課題になってくると思っています。

○嶋瀬　座長

需要は弱いけれども、山側も天候などの理由によって必ずしも十分な状況ではなかったため、結果的に需給がある程度バランスしている。ただし、そのような中でも、暖かくなってから使うための丸太を今、出していくべき、調達すべき時期なので、生産はしっかりやっていきたいというお話であったと理解しました。

製紙・パルプについて、日本製紙様から情報提供をお願いします。

○日本製紙（株）旭川工場事務部原材料課　東　原材料課長

我々は広葉樹メインで使用していますが、なかなか広葉樹の集まりが非常に悪い、年々悪化している中で価格もどんどん上がっています。

製品価格もある程度は、昨年、その前と転嫁はしたが、その背景は、木材が上がっているというよりも、どちらかというとエネルギー関係が上がったというところで製品価格に転嫁していますので、日本製紙全体として、チップが上がっているから製品単価に転嫁できるかというと、一工場単独の事情で転嫁することは非常に難しい状況になっています。

旭川工場は、道内真ん中のほうにありますので、道内材を活用するためにできているような工場で、それができないとなってくると、単純に他の工場のように外材に置き換えて操業というのが非常に困難な工場になっています。操業は今何とかやってはいるが、今後のことを考えると非常に不安があるといったところに、それに加えてＦＩＴ関係に後押しされたバイオマスの発電所も結構建ってきているなかで、道内材の奪い合いといいますか、資源の競争もどんどん加熱になっていくのかなというところも非常に不安を感じていますので、その辺また林野庁とか、いろいろ采配、振っていただけると非常に助かるなと思っております。

○嶋瀬　座長

バイオマスとの需要の競合についてお話がありました。北海道では、バイオマスは針葉樹がメインという印象を持っているのですが、広葉樹でも競合はかなり強い状況なのでしょうか。

○日本製紙（株）旭川工場事務部原材料課　東　原材料課長

私が聞いている話では、今までは針葉樹というところだったのが、広葉樹も使用されるようになってきたとのと、針葉樹で需要があることで、広葉樹の伐採が後回しという感じになってしまいます。伐採業者の方が針葉樹に力を入れているところに、影響は出ているかと思います。

○嶋瀬　座長

先ほど、製材・集成材・合板向けの針葉樹材需要は今、下げ気味だというお話がありましたが、ことバイオマスに関しては、針葉樹を中心に需要が非常に強まっているために、製紙部門と競合する辺りがそちらに引っ張られている状況と理解しました。

木質バイオマスについて、王子グリーンエナジー様から情報提供をお願いします。

○王子グリーンエナジー江別（株）江別発電所　坂口　所長

バイオマスですが、昨年からの変化はないところで、今ありましたバイオマスの木材にしても、マツを中心としている状況は変わっておりません。

特に市場の価格の影響とかも、他のものと同じように連動していると認識をしています。

○嶋瀬　座長

広葉樹の集荷を拡大させているというような状況はあるでしょうか。

○王子グリーンエナジー江別（株）江別発電所　坂口　所長

今回初めてお聞きした話で、今のところマツ中心としてというところが現状です。

○嶋瀬　座長

今回、製材工場の方にはご出席いただけませんでしたが、アンケートへのご回答などから見ても、製材・集成材・合板については、荷動きが必ずしも活発ではない中で、原木を調達するのに一番いい、重要な時期ということもあって、各社とも対応に苦慮されている、工夫を凝らしておられる状況ということが分かりました。また、バイオマス燃料材の需要が、針葉樹を中心に、いい状態が続いている。その一方で、出材は必ずしも天候の問題もあり、十分ではなかったために、製紙用の需給が厳しくなっているということと理解しました。

続いて、川上の状況について、お話を伺ってまいりたいと思います。

まず、旭川地方森林整備事業協同組合様から情報提供をお願いします。

○旭川地方森林整備事業協同組合　菅　事務局次長

道北地区の国有林の関係です。この時期、本来であれば請負事業も終了し立木販売に移る時期なのですが、国から発注の素材生産量が多いので、ここ数年、１～２月、今年については３月まで実行せざるを得ない状況になっているため、立木販売の事業の箇所をやることができていない状況になっています。

○嶋瀬　座長

それは単純に発注量が多いということなのか、先ほどからお話が出ている、気象条件その他のために生産が順調にはいかないという事情もあるのか、どちらでしょうか。

○旭川地方森林整備事業協同組合　菅　事務局長

生産量が多くなっているというのが原因です。

○嶋瀬座長

次に今井林業様から情報提供をお願いします。

○今井林業（株）西村　代表取締役社長

川上の造材業者として、今年度、請負の生産量は５万m3、４月からやって１２月の中ばで終わらせ、これから立木販売で作業をやるのですが、ただ、製材工場を含めて丸太の動き、バイオマスは別ですが、今まで３０何年いたが、釧根地区の製材工場の動きは最悪です。

例えば、昨年度１．５万m3買っていただいた製材工場が、０．１５万m3にしてくれないかというものも出てきた。

立木含めて１年間の素材生産量、７．５万～８万 m3 ですが、ほぼ１００％国有林で、素材生産請負以外は何をやっているのかというと立木の買い受けですが、これが大体、手持ち５万 m3 ぐらいで１年間回しているが、ここへ来て木質バイオマスの原料材は高値安定なのですが、一番今までと傾向が違っているのは、２４cm上の中丸太、大丸太、これが製材工場でほとんど無理かな。

お陰様で、合板工場に買っていただいているのですが、この先も制限があるということで、それと含めて当地区はアカエゾが多いものですから、アカエゾ自体はどうするのだといったら、小丸太も取れないから、木質バイオマスに持っていく。２４cm 上だけ合板に取ってもらう。それによってコストを安く生産でき生産量も上がります。ところが、

一般材を仮に３．６５m取るとしたら、１０㎝の伸びをつけて末口を表示します。それが一切なくなり、土場も２．４mなら２．４m原料材１か所となります。

有り難いことに、一つでも売れる樹種があると、手持ちの単価の高い山。ただ、搬出期限があるので、搬出期限３年の中で、単価の高い山は見切り発車して、安くても良いので、売れるものに転換しながら今年は切り抜けていて、来年以降も悪いのでそういうふうにしていこうと思っています。

森林整備事業を考えると、チップ材というのは売れるので、素材生産業も仕事があるから生きていけるかなという中で、今年はどちらにしても厳しい状況かなと思っています。

○嶋瀬座長

針葉樹が一般材を中心に悪い状況にある一方、燃料材に関しては荷動きがかなり活況であるというお話と認識しました。先ほどの川中部門でのお話の際に、広葉樹の不足があるという話を伺ったのですけれども、その辺りの手当てについて、何か動きはあるでしょうか。

○今井林業（株）西村　代表取締役社長

広葉樹は、ほとんど国有林の間伐事業なので、列状が多いですから、一列伐っていくという中で列と列の間にある程度なものです。

一般民有林から仮に広葉樹を買ったとしても、一般材がそれほど出てくるかといったら、いいものから伐ってしまっているので難しいのと、広葉樹のいいものですとハーベスタで玉切りするわけにいかないので、人力でやるとコストがすごくかかります。そういう部分があるので、なかなかこの先も難しいと思っています。

○嶋瀬　座長

針葉樹人工林の間伐事業量に依存して出てくるため、広葉樹だけの数量調整は難しい。加えて、高価なものほどハーベスタを使った機械作業に向かないので、やはり生産が上がっていかない状況だということですね。

○今井林業（株）西村　代表取締役社長

バイオマス原料の広葉樹というのは、場所によって、列間に結構量がある面もあり、出てくる分はほとんどがバイオマス原料の広葉樹です。ただ、量がなかなか不安定で、そんなに出てこないのが実態だと思います。

○嶋瀬　座長

王子フォレストリー様から情報提供をお願いします。

○王子フォレストリー（株）荒井　代表取締役

原木の生産量については、私のところは毎回そうなのですが、労働力確保のために作業班をフルで動かす必要があり、市況が多少変動しても、生産量は変えずにやっていくしかないです。

最近気になっているのは、生産される材に大径材が増えていることです。特にカラマツで、高齢林の伐採が増えてくると、３０㎝上が当然増えてきます。さて３０㎝上の需要はとなったときに、我々としてはＡ材で売りたいところです。素材生産業者にとっては、利益を確保できるのは製材用原木や合板用原木であり、合板用はともかく製材用の販売先

は確保できるのか、懸念されるところです。

昨年は冬山造材で生産された材の運材が進まなかった。冬山の時点で運材が進まなくて、春過ぎて夏以降の搬出となった箇所もあります。さらに異常なほどの酷暑が重なり、結局、Ａ材、Ｂ材で確保していた材が、虫が入ってＣ材、Ｄ材に落ちてしまったというのが結構ありました。もし今年も酷暑になった場合には、また同じようなことが起きるのではないかと懸念しています。バイオマスとして燃やすものについてはある程度いいとしても、Ａ材、Ｂ材は何とか傷まないうちに搬出したいと考えています。

○嶋瀬　座長

今、カラマツの山もどんどん木が大きくなってきていて、これをいかに価値付けして売っていくかが大事な課題だろうと思います。その意味で、今、新しく建てられている製材工場や集成材工場を見ていると、かなり大きい丸太まで投入可能なラインの整備が徐々に進んできているという印象はありますが、山から供給される材が大きくなっていくスピードに需要が追いついていくことが大事なのだろうと、お話を伺っていて感じました。

国安産業様から情報提供をお願いします。

○国安産業（株）港　常務取締役

今の原木状況ですが、国有林の素材生産の事業も終わり、購入した立木で生産を行って原木を販売しているが、この１年、需要も回復していない、変わらない状況が続いて、工場も稼働日数を減らしているところも結構多くあって、各工場、原木在庫も十分確保しているようで、制限しながら受入れしている状況でしたが、今は徐々によくなっているところもあって、原木を集め出す時期でもありますので、原木の受入れに関しては、若干問題なく受け入れてもらっている状況になってきています。

ただ、今の状況が続けば受入れも厳しくなってきますし、価格も徐々にまた下がっていくような感じは受けています。

今、原木は売れない状況ではないので、生産は支障なく進めていますが、春から製品の動きで原木状況がどうなっていくか考えて進めていこうと思っています。

素材生産の事業量に関しましては、国有林の素材生産事業も増産方向で発注されていますし、立木公売においても、主伐物件以外の間伐等は競争性も強くないので、事業量は十分確保できる状況ですので、早い回復を待って、状況を見ながら生産して対応していきたいと考えています。

○嶋瀬　座長

函館地方森林整備事業協議会様から情報提供をお願いします。

○函館地方森林整備事業協議会　倉知　専務理事

道南地方は、大きな製材工場が少ないものですから、注文の減少により在庫製品が非常に多くなってきている状況です。特に原木の製材・合板向けの買い控えが非常に多くなり、大変苦戦している状況です。

一方、国有林の素材生産事業がほぼ終わりまして、立木販売に入ってきているところですが、雇用の状況から、是非これは繋いでいかなければならない状況です。

もう一つ、道外に移出している状況ですが、なかなかよくない状況でして、地元製材

工場と調整しながら、今、立木販売をやっている状況です。

○嶋瀬　座長

大きな工場が少ないという地域性もあって、ご苦労されている面もあるということでした。

北見地方素材生産事業協同組合様から情報提供をお願いします。

○北見地方素材生産事業協同組合　山本　専務理事

当組合員の関係でお話させていただくと、国有林の素材生産事業が、北見管内で今年度２１万 m3 を超える数量を請負実行しているところで、全体的にはまだ実行中というところが多いです。

数社ではあるが、生産請負をやることによって、立木販売で買ってあるところの搬出期限が３年を迎えることで、どうしても延期願を出さざるを得ない、又は、返納せざるを得ない会社もあります。

来年度も国有林の素材生産量が増える可能性があるが、それに向けて一生懸命やるにしても、正直言って人がいないところに問題があります。人がいれば、もっともっと素材生産もできると思いますが、なかなかそういうところに至っていないのが実態であり、今後に向けても、当組合員は国有林の素材生産請負をメインにやっていますので、そこを一生懸命やりながら、道有林、民有林の素材生産もやるざるを得ないところであります。さらには造林もやらざるを得ないので、一番問題なのは、労務対策というところに尽きると思っています。

○嶋瀬　座長

事業量は潤沢なものの、人の問題で追いついていかない面があるというお話だったかと思うのですが、将来に向けて人を強化していくというような方向性は、地域では出てきているのでしょうか。

○北見地方素材生産事業協同組合　山本　専務理事

やはり人を雇い入れたいという努力は各社がやられております。なかなかそれに追いついていかないのが実態です。これはどの産業も、今、労働者不足だということはあるのかもしれませんが、特に山で働くところに、素材生産は機械化がされていると言いつつも、なかなか若い人が集まってこないのが実態かな。

特に、伐れば再造林しなければいけないので、造林の労務者がかなり足りない。

お陰様で国有林の素材生産をやらせていただいているので、努力をしてやって国有林の言われる計画に基づいて生産はしていっていると思っていますが、正直言ってこれ以上増えたら、なかなか難しいというのが実態であります。

○嶋瀬　座長

髙篠会長、もしこの分野について何かありましたら情報提供をお願いします。

○北海道素材生産業協同組合連合会　髙篠　会長

かなりのところでは年内に国有林の素材生産請負は終わったようですが、私の会社ですと意外と早く、いつも１～２月までかかったのが１２月の頭で終わったので、今、立木販売に入っています。

重機が入って緩傾斜地のような条件が良い所とか、あるいは皆伐に近いような伐採方法だと結構早くいきます。実際、皆伐になると倍近くいくので、機械が入るようなところを生産請負を出してくれると、どんどん進むような感じがします。

機械がいろいろ高くなったり、特にユーロとかは円安が厳しい、油に尿素とかも混ぜなければいけない、足回りが非常にすぐ痛むので、耐用年数が実際より短いです。この間も現状に関して局にもお願いした。素材生産は、何とかそれに応えるべく、担い手確保も非常に厳しいのですが、集めていかなければいけないところです。

ただ、先ほど、住宅着工が厳しいとありましたが、立木販売になった場合に３０㎝上とか、一般材の売行きが非常に気になります。

この間、ニセコに移転してきた紅茶の会社の本社を見てきたらＣＬＴを使っていて、いよいよこういうところもやってきたのだなと。

今、全国で大手ゼネコンが相当大きい建築、マンションあるいはビルとかどんどん木造を取り入れるということで、大分宣伝してくれているのですが、札幌でも一つ二つできたということですが、札幌周辺では建ち始めたのか、あるいは設計なんかがあるのか、その辺、川下の方で情報あれば伺いたい。

○嶋瀬　座長

丸太の引き合いは、現状どうですか。順調でしょうか。

○北海道素材生産業協同組合連合会　髙篠　会長

先ほどのお話のとおり、梱包材、その他のほうもちょっと厳しいです。取ってはいただけると言うのですが、一般材がちょっと厳しい。場合によっては東北方面に、港に出すしかないのかなという状況です。

それから広葉樹に関しては、間伐のついでに出てくるだけなので、昔はいっぱい出てきたような優良銘木は、最近お目にかかっていません。立木販売の中でもそういうのが出ていただけると、いろいろな家具とか内装関係の方も喜ぶのではないかと思いますが、まだ非常に厳しい状況かと思います。

○嶋瀬　座長

先ほどご質問のあった、大手ゼネコンによる大型木造について、情報をお持ちの方がおられましたらお願いします。

○（一社）ＪＢＮ・全国工務店協会　武部　理事

大手ゼネコン系も、今、盛んに木造建築の木造化、木質化は、皆さん大きな関心持って進めておられるし、特にスーパーゼネコン辺りは研究機関を持っていますから、単なる集成材ではなくて、都市の木造化という需要がこの後出てくることによって、素材としての耐火、防火、そういう素材開発から進めて、木造化の研究準備の段階だと思います。

同時に、いろいろなプロジェクトの中でも、プロポーザル関係で木造の建築を提案していく事例が、道内で現在進行形で進められているのも耳にしたことがあるので、これからそういう需要は必ず、社会全体として脱炭素という大きな追い風もありますから、そちらに進んでいくし、ゼネコン系がそちらのほうに進出してくるのは、もう間違いないと思っています。

○嶋瀬　座長

次に、北海道森林管理局武田部長様から情報提供をお願いします。

○北海道森林管理局森林整備部　武田　部長

原木の供給をするという立場から、四半期に一度、供給調整検討委員会を行っております。直近ですと１２月に行いまして、ここに参加されているメンバーも含めていろいろな方から意見を聞いて、供給調整の必要性を議論しているところです。

１２月に関しては、状況的には、よい状況ではないものの、これから冬期の材を確保していくという話が出ており、国有林の調整は必要ないという結論になっていますが、今後、注視していくことで議論しているところです。

国有林としては、原木の安定供給ということも使命としてありますので、計画的に販売を行っていくことで考えているところです。

ちなみに１２月末の立木販売実績については、大体出せるものは出してしまったという状況ですが、年間の計画の３１％を販売。製品販売実績については、今後も続きますが、１２月末現在で６６％売れている状況です。

国有林の事業は、年度末に向けてある程度残っていることもあり、安定供給、計画的な販売を進めていきたいと考えているところです。

○嶋瀬　座長

様々な需要変化はあるわけですが、それに対して供給調整検討委員会を中心にいろいろ情報収集し、その上での意思決定をされ、柔軟に対応されていると理解しました。

次に北海道庁林業木材課野村課長様から情報提供をお願いします。

○北海道水産林務部林業木材課　野村　木材産業担当課長

前半、北大の佐々木先生から御質問のあった点で、林野庁の方にお答えしていただいていますが、本来であれば私のほうでお答えしなければいけなかった部分、補足でまずお話させていただきます。

道内のＦＩＴ発電施設の稼働状況ですが、現時点で１８基稼働しております。そのうち輸入材のみが３基、道産木材のチップ等を使った施設が１５基あるという状況をお知らせさせていただきます。

また、ＪＡＳの認証の工場数は、一般製材のＪＡＳの認証工場が、令和５年３月３１日現在で８９ございます。

林野庁の方からも、道内は産業用資材の生産が多いので、本州に比べてあまり影響がないというご発言があり、そういう状況ではありますが、道としては、特に建築材、角材を作られており、ＪＡＳを取得されていない工場などには影響が出ると想定され、集成材のほうに需要が流れるのではというのは、業界の方からも聞いて承知しており、今後、業界の方々の御意見を伺いながら対応を進めたいと思っているところです。

皆さんからお話のあったとおり需要が低迷していることで、道で年末に取りまとめました令和５年度の需給の見通しも、令和４年度に比べて９２％、令和３年度の比較だと８７％となるような見通しになっており、なかなか建築材、合板・産業用資材も含めて、バイオ以外は厳しい状況になっていると思っています。

回復の兆しをなかなか見つけるのも難しい状況ですが、業界の取り巻く様々な動きを捉えながら、皆さんと協力して取組を進めていく必要があるかと思っています。

先ほど非住宅の大手ゼネコンの話がありましたが、道では、「HOKKAIDO WOOD BUILDING」といって、道産木材を使用した非住宅の木造施設を登録していただき、企業の方々と一緒にＰＲしていく取組を行っています。現在６１施設が道内各地で登録されており、企業の皆様と、道産木材を使った先進的な技術とかデザインとかを一緒にＰＲしていっていますので、そういう非住宅の動きに応じて、しっかり我々もＰＲしていきたいと考えているところです。

構成員の皆様からも出ていました労務者の関係、我々も行政課題として取り組んでいるところであり、今、国の事業を活用しましてスマート林業の取組を進めています。

やはり造林分野の担い手がかなり不足しているのと、下刈の作業が夏場に人力で行っているところであり、そこの機械化やコンテナ苗の普及拡大も進めながら、造林作業の省力化を図っていく実証も行っていますので、そういう実証成果も含めまして、業界の皆様にお知らせしながらスマート林業の推進をしていきたいと考えています。

○嶋瀬　座長

川上部門の現状認識として、製材・集成材・合板を中心に製品自体の引き合いが弱まっているため、原木の引き合いも弱い一方、バイオマス用については引き続き強い需要がある状況と理解しました。ただ、山の仕事も国有林を中心に潤沢にあり、さらに、今がピークシーズンということで、山の生産も活況である一方、行き先については、原木の引き合いが弱い部分が、特に建築用などの付加価値が高い需要部門で見られる。今後、近い将来に向けて言えば、より大きな丸太がたくさん出てくるようになる中で、これにどう価値付けをしていくのかということが問題として認識されている状況だというお話だったと思います。

今まで川上の皆様からたくさん情報をいただいたのですが、これらの発言内容について、質問や意見があればお願します。

○林野庁木材産業課　永島　課長補佐

今日の発言で、函館の整備事業協議会と髙篠会長からあったかと思うのですが、道外への移出があるという部分で、道内と道外で材料の住み分けというか、どういったものが移出に向けているのか、どういったものが多いのか、傾向があったら教えて欲しいと思うのでよろしくお願いします。

○函館地方森林整備事業協議会　倉知　専務理事

道南は、やはり主体はスギ材が東北地方に移出しているようです。

○嶋瀬　座長

スギが東北に行っているのは、どういった需要向けなのでしょうか。

○函館地方森林整備事業協議会　倉知　専務理事

合板、製材が主体になると思います。

○北海道素材生産業協同組合連合会　髙篠　会長

細かいデータは持っておらず商社のほうが詳しいかと思いますが、やはり合板向けが

多いかと思います。

丸玉さんのほうに向かっている材もありますが、一部は苫小牧、あるいは留萌から東北に向けて行っています。

○嶋瀬　座長

全体を通じて聞きそびれたこと等あればお願いします。

○林野庁木材産業課　永島　課長補佐

全体を通してというところでコメントさせていただきます。

林野庁にコメントいただいたところで、製紙、パルプとバイオマス業界で、原料が競合している状況について教えていただいて、これまでもそういった状況というのもあるようにお聞きしています。難しい問題であって、すぐにというものではないですが、私からも今の状況は担当に伝えますし、今後も林野庁が取り組んでおります、例えば未利用材の活用だったりとか、地域での需給バランスが取れる状況に資するような機会を増やしたりとかいうことで、いただいた意見を活用していきたいと思います。

もう一つ、プレカットの岡本さんからのお話で、森林環境譲与税を川上分野だけでなく、川下分野でもうまく活用していくことが大事だと伺いまして、そういった活用は全国でもされている状況ですので、ＨＰにも事例が載っているので、是非見ていただけたらと思っています。

北海道のことは、詳しく分からないので、もし道庁で御存じのことがあればお願いします。

○北海道水産林務部林業木材課　野村　木材産業担当課長

木材利用に関しては、地域で役場建設とか施設整備に使われている市町村もありますので、森林整備だけではなくて、幅広く木材利用にも使っている事例は、道内の市町村でもあります。しっかり道としてもＨＰで情報提供させていただいているので、今回のお話を聞かせていただいて、関係課からしっかり事例の周知、ＰＲを強化していきたいと思っています。

人材育成についても、譲与税を活用しながら取り組んでいる市町村もあり、森林整備で活躍でき、人材不足を解消できるような育成も道内で行われていますので、そこもしっかり周知していきたいと思います。

○嶋瀬　座長

全体を通じて、林産試験場の酒井様からコメントいただければと思います。よろしくお願いします。

○（地独）北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場　酒井　研究主幹

今回、非常に皆様の話を聞いて、物流と同じぐらい深刻な問題として捉えたこととして担い手問題です。苗木を育てる方、植える方、運ぶ方、トラックの運転手、あるいは工場の操業オペレーターなどが、これだけ短期間で激しく需給の状況が変わる中で、雇用も維持できなくて、そして需要が戻ってきたとしても、人は戻らない状況が、それぞれの皆様の営業状況に非常に深刻な影響を与えていると感じました。

森林環境譲与税などを使った人材育成というのも、本当に喫緊の課題として取り組んで

いかなければいけないと思っています。林産試験場に併設されている北森カレッジでも、大体１年あたり４０人ぐらいの新しい人材が巣立っていますので、皆様の担い手問題が、一朝一夕に解決する問題ではないが、徐々に回復していけばいいなと思っています。

○嶋瀬　座長

今日、川上から川下まで、一部欠席が重なってしまってお話を伺うことができない業種もありましたが、たくさんの方に、詳しくお話を伺うことができたと思います。

需要の現状、生産の現状、将来についての見通しや課題の一つ一つを、今、すっきりうまくまとめることはできませんが、非常にボリューム感を持ってお示しいただけたのではないかと考えています。

その中で特に、今後の成長が予想され、大丸太の出現割合が多くなるであろう、カラマツを中心とする道内の人工林資源をどう活用していくのか、価値付けしていけるのかは、今から考えていかなくてはならない重要な問題だと思います。

それから担い手の問題です。酒井さんからもお話がありましたが、北の森づくり専門学院、年間４０人の卒業生を輩出する、林業専門学校としては非常に規模の大きなところで、その卒業生達が北海道を中心に全国に就職していかれることで、彼らは横のつながりを持っているので、横のネットワークも今後、強化が期待できると考えているところです。それだけで解決とはいかないと思いますが、重要な人材の供給源として、これからますます役割が高まっていくことを改めて感じたところです。

本日は皆さまから多様なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

我が国の森林の循環的な経営、管理、また需要者に対する木材の安定的な供給に向けて、国産材の利用の推進が欠かせない状況となっています。為替の影響や、木材需給に係る世界各地の動向、国内の住宅需要動向の影響が大変不透明な状況にある中、国産材活用のチャンスを広げていくためには、今後の需給見通しや、それらを踏まえた先進的な取組について、参考とすべき情報をどんどん取り入れて活用していくことが非常に重要であると考えています。情報共有の場として、この需給情報連絡協議会を大いに活用いただくためにも、引き続き、皆様にご協力をいただきながら、議論を深めていければと考えています。

以上